

第8回島根支部学術集会

学術集会会長：松江市立病院病院長 錦織 優



会場風景

2009年9月12日(土)、第8回島根支部学術集会をくにびきメッセ(島根県立産業交流会館)で開催しました。

今回は“良質で安全な医療体制をめざして 外来の

現状と対策”をテーマに参加者は356名でした。

シンポジウムでは、初参加の救急救命士の貴重な講演により救急現場の実情・医療施設との連携の諸問題が病院関係者に伝わりました。また、救命救急担当の医師・ナースからの現状報告と対策・今後の方向について、事務の方からは、職員のアンケート調査による分析・問題点への対策と院所利用委員会の活動による地道な患者対策の成果報告がありました。特別講演は船橋市立医療センターの唐澤秀治先生から“良質で安全な医療体制をめざして 外来での諸問題と対策”と題して、外来でのトラブル対策の考え方、対策についての講演は、実践的で大変勉強になりました。シンポジウムと併せて、参加者の関心が高く盛会でした。一般演題では口演7題、ポスター発表24題に対して活発な討論がみられました。

(文責：松江市立病院診療部長 謝花正信)

第8回九州・山口連合大会

会長：飯塚病院院長 田中二郎

2009年9月22日(火・休)～23日(水・祝)の2日間、福岡国際会議場におきまして、第8回九州・山口連合大会が開催されました。



会場風景

会長挨拶

小雨が降り続く、あいにくの空模様となりましたが、2日間で約1,500名の参加を頂き、一般演題240題、クリティカルパス展示49題について、活発な討議や意見交換が行われました。

基調講演では、宮崎久義理事長に「クリティカルパスで地域の医療提供を考えるー地域連携とクリティカルパスの貢献」、教育講演では、上原鳴夫先生に「医療安全全国共同行動がめざすもの」、河野龍太郎先生に「ヒューマンファクター工学の観点から見た医療システムの問題点と対策」、坂本すが先生に「これからの看護のあり方」、特別講演では、鈴木裕先生に「患者は日本文化～文化財修復の技と

心の伝承」について、各々ご講演頂きました。

シンポジウムは4テーマ(患者のための医療、看護師の新人教育、多角的視点から見た医療、チーム医療)、ランチョンセミナーは8テーマ(インフルエンザ、緩和医療、救急教育、地域連携クリティカルパス[心疾患][脳卒中]、医療のIT化、ISO国際認証制度、感染対策)、明るい病院改革実践セミナーは4テーマ(医療安全、QC手法マスター、呼吸器演習、リーダーナース気づき演習)で行われました。

今大会では、クリティカルパス展示で参加者の投票による優秀演題選出並びに表彰を行ったり、実践形式のセミナー(呼吸器演習、QC手法演習等)を行ったりと、新たなチャレンジをすることが出来、大変有意義な会となりました。

改めて、大会運営にご支援とご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

第9回北海道支部学術集会

学術集会会長：北海道社会保険病院病院長 岸 不盡彌



会場風景

第9回北海道支部学術集会が、2009年10月3日(土)に札幌コンベンションセンターで開催され、100名を超える参加がありました。

「医療安全とリスクコミュニケーションー安全・

安心・信頼の向上を目指してー」をテーマに掲げ、特別講演1題、ランチョンセミナー1題、一般演題(口演)32題の発表が行われました。

特別講演では、日本医療マネジメント学会理事長宮崎久義先生をお迎えして「医療安全への取り組みー実例を含めてー」と題して、先生のご経験を含めて医療安全の取り組みについて大変有意義なご講演を頂きました。

ランチョンセミナーでは、杏林大学医学部附属病院看護部長福井トシ子先生をお迎えして「リスク共有コミュニケーション」と題して、医療現場での実践の視点からユーモアを交えてご講演を頂きました。

一般演題では、リスクマネジメント関連が14題となり、発表後も活発な討論が交わされ、医療安全に対する意識や関心の高さが感じられました。また、医療安全に関する情報を多面的に収集して頂いたのではないかと考えます。

今回の学術集会を無事に終えることができましたことは、ご参加頂きました皆様のご協力とご支援によるものと心より感謝申し上げ、開催報告とさせていただきます。

(文責：北海道社会保険病院副院長 広瀬崇興)